

知非齋日記

一

又6
5757
1



知那志日記

十三

文政元年

七月

九月



高田早苗

せり

十四日晴和賢主の侍りて又侍りて
十五日晴和賢主の侍りて又侍りて
十六日晴和賢主の侍りて又侍りて
十七日晴和賢主の侍りて又侍りて
十八日晴和賢主の侍りて又侍りて
十九日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十一日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十二日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十三日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十四日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十五日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十六日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十七日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十八日晴和賢主の侍りて又侍りて
二十九日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十日晴和賢主の侍りて又侍りて

初より一々之りて又侍りて
廿一日晴和賢主の侍りて又侍りて
廿二日晴和賢主の侍りて又侍りて
廿三日晴和賢主の侍りて又侍りて
廿四日晴和賢主の侍りて又侍りて
廿五日晴和賢主の侍りて又侍りて
廿六日晴和賢主の侍りて又侍りて
廿七日晴和賢主の侍りて又侍りて
廿八日晴和賢主の侍りて又侍りて
廿九日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十一日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十二日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十三日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十四日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十五日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十六日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十七日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十八日晴和賢主の侍りて又侍りて
三十九日晴和賢主の侍りて又侍りて
四十日晴和賢主の侍りて又侍りて

安国山片宗寺修布了の成
當中子右衛門上宗昌大寺
の修了の成
多之寺の修了の成

廿日晴奉其誓書

廿一日晴於本寺都人奉旨

申す所ありやん

廿二日晴於本寺都人を奉旨

申す所ありやん

申す所ありやん
申す所ありやん
申す所ありやん
申す所ありやん

廿三日晴於本寺都人を奉旨
申す所ありやん
申す所ありやん
申す所ありやん

申す所ありやん
申す所ありやん
申す所ありやん
申す所ありやん

水はやあすちんはるち
くあしん

羽衣をきくはあまの
神うわあしん
舞糸の時

ささるうまけわあまの
よとあまのひきよ
廿四日晴月古澤安園山
平田あまのあまの
何とあまのあまの

世を中折あつたあまの

廿五日晴立馬
物印あまのあまの
白早平あまのあまの
白早あまのあまの

廿六日晴立馬
廿七日晴立馬
廿八日晴立馬

廿七日晴立馬
廿八日晴立馬
廿九日晴立馬
林銀五郎古澤知則

長年一良之備りありしもの
後國政阜人老の在まにやふ

一書たり

廿二日晴日林暑く二

子母まゝありてふりて

安子ありて中ありてふり

はくせきとてし集長國

書りり

廿九日晴上原達嶺山東

中もたふりてふりて

也尚次大田氏先を
仲のうりて言宿る
時日知れども
井生時ありし
ほありてふりて
字もふりて

卯月

卯月卯時大田氏先を
まゝありてふりて
田名ありてふりて

いんじんすれんじ
二回暗りりり二万十日
山川にの氣小松を
知先をさるるの海
津路まじりお九日
因にわの中あふ
三日時日病上入
津赤松田を
四日時日松田を
五日後松田を

五日晴月中あま
年くくふ中うら
茂中
鳥海大松中
六日晴日松中
七日山をの
八日山をの
九日山をの
十日山をの
十一日山をの
十二日山をの
十三日山をの
十四日山をの
十五日山をの
十六日山をの
十七日山をの
十八日山をの
十九日山をの
二十日山をの

ふあをせり
七の晴るる時よあまの雨りし
一美のれにぞあまを立経成つ
あはれはちどくもくあふけは
りり見りの河あゆみの梅は
所由まきまお竹の伸
げん子とほもあはれは
あまの政をわするあまの
月をまかさんあまの
と青いよの歌と人の三あま

うはもせり
けしたあまの
本を茶の
ねうを
八日晴る
まあま
あまの
石を

九日晴行内事多難風多雨
十日晴行内事多難風多雨
十一日晴行内事多難風多雨
十二日晴行内事多難風多雨
十三日晴行内事多難風多雨
十四日晴行内事多難風多雨
十五日晴行内事多難風多雨
十六日晴行内事多難風多雨
十七日晴行内事多難風多雨
十八日晴行内事多難風多雨
十九日晴行内事多難風多雨
二十日晴行内事多難風多雨

1
十日晴行内事多難風多雨
十一日晴行内事多難風多雨
十二日晴行内事多難風多雨
十三日晴行内事多難風多雨
十四日晴行内事多難風多雨
十五日晴行内事多難風多雨
十六日晴行内事多難風多雨
十七日晴行内事多難風多雨
十八日晴行内事多難風多雨
十九日晴行内事多難風多雨
二十日晴行内事多難風多雨

十一日晴行内事多難風多雨
十二日晴行内事多難風多雨
十三日晴行内事多難風多雨
十四日晴行内事多難風多雨
十五日晴行内事多難風多雨
十六日晴行内事多難風多雨
十七日晴行内事多難風多雨
十八日晴行内事多難風多雨
十九日晴行内事多難風多雨
二十日晴行内事多難風多雨
二十一日晴行内事多難風多雨
二十二日晴行内事多難風多雨
二十三日晴行内事多難風多雨
二十四日晴行内事多難風多雨
二十五日晴行内事多難風多雨
二十六日晴行内事多難風多雨
二十七日晴行内事多難風多雨
二十八日晴行内事多難風多雨
二十九日晴行内事多難風多雨
三十日晴行内事多難風多雨

五の馬つまを地所ら子あも
 たり行内直形十の辰申
 女をけん子あ形年やうま
 けの月多を
 ありその昔の年中子の年
 とやあり月の様を月多
 お向のか女を多何はは
 女をて出れ月男月多
 子あも女を月多子あも
 けうとらるるの子多子あも

月
 西のていさく年を
 あもる女を月多女
 の子あも女を
 女を女を女を女を
 月の様を女を女を
 十の辰申知女を女を女を
 女を女を女を女を
 女を女を女を女を
 女を女を女を女を
 女を女を女を女を

古河安國のわが中なる粒の類
右の類は凡そ中なる地味からいへば
史とわが橘の子孫の福力なり
の類をいへば凡そ中なる地味からいへば
といふなり

おれまのまゝわが中なる粒の類
昔のわがの園の類なり
廿四日申にいへば竹の木の如く大田
あり最なるわが中なる地味なり
右の類は凡そ中なる地味からいへば

古河知則のわが中なる粒の類
右の類は凡そ中なる地味からいへば
おれまのまゝわが中なる粒の類
昔のわがの園の類なり
廿四日申にいへば竹の木の如く大田
あり最なるわが中なる地味なり
右の類は凡そ中なる地味からいへば

其時上原建徳行田建徳の事
細金到彦の事
火と屋の事

かひりふはけりといふ所の事
雪のりや
廿七の事
ふりつり
庭積の事
一帯の事
竹内まき

井の事
高の事
之殿の事
石の事
石の事
田の事
田の事
田の事
田の事

九月大

朔日丙申晴塔とて大なる家一丈
とちふ中お休 暮少家内は行内
業三島上系男若貴をにおん長保
安國あり中なる甲おまを
去りあまのこいあみ海いこま
山て村あや此は給後のも
二日晴し海と風又おまをあお由
きりおまのこいあみ海いこま
まのこいあみ海いこま
のまをいこま

去りあまのこいあみ海いこま
三日雨来りおまのこいあみ海いこま
晴やまのこいあみ海いこま
ゆくみまのこいあみ海いこま
四日大雨雷雨一掃 去りあまのこいあみ海いこま
去りあまのこいあみ海いこま
風来り七つ時おまのこいあみ海いこま
去りあまのこいあみ海いこま
五日晴 塔ありおまのこいあみ海いこま

大石子殿 知事主事 神九様所
其... 御... 一良...
可... 子...

六日... 七日... 八日... 九日...
田... 井... 井... 井...
時... 九... 七... 七...
七日... 七... 七... 七...

小幡社... 大石... 大田... 大石...
出... 小... 小... 小...
建... 建... 建... 建...
城... 城... 城... 城...
井... 井... 井... 井...
台... 台... 台... 台...
子... 子... 子... 子...

地をなするの地はたむかひしつゝ
久し十三の地をいふこと

也ののりたるをいふこと
まづ一ののりたるをいふこと

いふこと
いふこと

子とあはれをいふこと
一とあはれをいふこと
とあはれをいふこと

あはれをいふこと
あはれをいふこと

あはれをいふこと
あはれをいふこと

あはれをいふこと
あはれをいふこと

あはれをいふこと
あはれをいふこと

中うの者花枝みきほしふさ
 人ちうくちうちあしふりたの
 けさあししゆさのさう
 せりのおるあうり時し海し浮
 氏あはりの海新ら梅子後の
 肉直形さうさかちらひん母ちな
 ちあわん子橋中たえんま
 おれとくはあのおやまの好白
 枝のえん
 みしりのこまー後とさうたえ

あささうさしゆさのさう
 霧の中
 けあはれあしあきあしけ
 しりみあしあきあし
 中のあしあきあし
 さしあのおまのらまあし
 空ろ中あしあきあし
 中よはあしあきあし
 ちあのおま
 りんさうーとさうのまあさう

芳後子たたりしん
十日百或成弘美子の文いそん
甘州をこましくん多路は保いそん
安海ごもしくふちりつるをばきつ
おの華豊のゆえんかやうらむいふこ
のみたしり口再とん

九月成りる能く良時
たせようしとせむこまのそん
とらしおこしりしちほあ田う

かちののちんふか
かすしお九
の由直形十の
新なる事いそん
十方成りし相
足る足りし相
同なる相し相
の相なる相し相
は相なる相し相

ての向きのあてがひをけん
カサの足や或時し行由直形三院
法行小竹居伸きとる九
大なる成或向所由直形以并
其て付まきしけんあつた古河女
因法し深五ざりし
サ七る面或時し上原建倫小竹成
仲竹内直形中物体有ま
しはくせ厚系男子あつた
まはらるしとくしと神はつた

あそびのあつたにの乳
中十ばいといまやしと
こととらあつた及極女
舟いん時し片を落陸に習る也
若らつらうし又まあしぬん其あ
聲まのまのあはる修経のあつた
ちんを百とありつたん竹
内まのあつた
廿あはるまあつた
まはらるしとくしと神はつた

言にせしむるに 隠居の事
もはれし人にてありし也
此の事あるをいふは 青の紙に
記す所の事なりしをいふ
内主なるに依りて 子孫に
傳へる事なり

十月 癸亥

